

教科目名 都市計画 I (City Planning I)

学科名・学年 : 都市・環境工学科 4 年 (教育プログラム 第 1 学年 ◎科目)

単位数など : 必修 2 単位 (前期 1 コマ, 後期 1 コマ, 授業時間 46.5 時間)

担当教員 : 亀野 辰三

授業の概要			
近年、都市計画は「まちづくりとは、住むための良い環境をつくるもの」という環境重視の観点が強く要請されている。そこで、本講義では、前半には従来と同じく都市計画法を中心に解説するが、後半は、都市計画法と並んで重要な建築基準法や都市の整備手法について講義と具体的な事例を解説したい。これらの一連の学習の中で、都市計画の基礎知識を踏まえた都市計画的な見方・考え方ができるようになることを目指している。			
達成目標と評価方法		大分高専目標 (B2), JABEE 目標 (2, 1⑤)	
(1) 都市計画に関する基礎理論が理解できると共に、都市計画的な見方, 考え方ができる能力を養成する。(定期試験)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1, 2	1. 都市論 1.1 都市計画の分野	○都市計画の全体像について解説する。 ○防災や景観分野の重要性を理解する。	【理解の度合い】
3, 4	1.2 都市の分類 2. 都市計画法及び関連法規	○都市の分類方法について学ぶ。 ○都市計画法及び関連法について学ぶ。	
5	2.1 都市計画法	○都市計画区域や用途地域等の基礎概念を理解する。	
6	2.2 地域地区に関する法規		
7	3. 都市計画の策定 3.1 概説	○都市計画の策定手法を学ぶ。 ○総合計画とマスタープランを理解する。	
8	3.2 都市計画調査	○人口予測の手法と応用を理解する。	
8	前期中間試験		【試験の点数】 点
9, 10	前期中間試験の解答と解説	○わからなかった部分を理解する。	【理解の度合い】
11	3.3 都市の将来ビジョン	○コンパクトシティについて学ぶ。	
12	4. 都市計画の歴史	○都市計画の歴史について理解する。	
13	5. 都市構造論	○代表的な都市構造論, 特にハワードの田園都市論について深く学ぶ。	
14	5.1 田園都市論&我が国への導入	○土地利用計画の必要性と種類について学ぶ。	
15	6. 1 種類		【試験の点数】 点
15	前期末試験		
16	前期末試験の解答と解説	○わからなかった部分を理解する。	【理解の度合い】
17	6.2 用途地域	○用途地域について詳しく学ぶ。	
18	6.3 その他の地域地区	○補助的地域地区について学ぶ。	
19	7. 建築基準法	○建築基準法上の基礎用語を理解する。	
20	7.1 建築物と建築	○建築物と建築の定義を理解する。	
21	7.2 敷地と道路の関係	○建築基準法上の道路について理解する。	
22	7.3 建築確認	○建築確認について学ぶ。	
23	後期中間試験		【試験の点数】 点
24	後期中間試験の解答と解説	○わからなかった部分を理解する。	【理解の度合い】
25	7.4 建蔽率	○建蔽率と容積率の定義を学ぶとともに, それらの算定手法について理解する。	
26	7.5 容積率		
27, 28	8. 都市の整備事業	○都市の整備事業の全体像及び整備手法の種類について学ぶ。	
29	8.1 整備手法の種類		
30	8.2 土地区画整理事業	○土地区画整理事業の仕組みを理解する。	
30	9. まとめ	○まとめと今後の方向性を理解する。	【試験の点数】 点
30	後期末試験		
	後期末試験の解答と解説	○わからなかった部分を理解する。	
履修上の注意	日頃から新聞を読む習慣を付けること。また専用の大学ノート (B5 サイズ) を用意すること (ルーズリーフは不可)。		【総合達成度】
教科書	平田・亀野・宮原・武井・内田, 環境・都市システム系教科書シリーズ 16, 「都市計画」, コロナ社		
参考図書	石井・湯沢・亀野他共著, 「最新 都市計画第 3 版」, 森北出版		
自学上の注意	都市計画に関する演習問題を常時課すので, 学生は自ら教科書や参考書, インターネット等を用いて調べて提出すること。		
関連科目	測量学, 道路交通工学, 環境計画, 地域計画学		
総合評価	達成目標の(1)について定期試験で評価する。総合評価=4回の定期試験の平均。総合評価が60点以上を合格とする。再試験は, 総合評価が60点に満たない者に対して実施する。なお, 再試験の受験資格は総合評価が40点以上の者に与える。		【総合評価】 点